

於黑媛之家而歸焉、明日之夜、太子不知仲皇子自紆而到之、乃入室開帳、居於玉床、

〔古事記中神〕其山之上張繩垣立帷幕。

〔古事記傳三十三〕帷幕は阿宜波理と訓べし、略又斗婆理とも訓べし、

〔日本書紀十九〕二十三年八月、天皇遣大將軍大伴連狹手彥、領兵數萬、伐于高麗、狹手彥乃用百濟計、

打破高麗、其王踰牆而逃、狹手彥遂乘勝以入宮、盡得珍寶、賂賂七織帳、鐵屋、還來、舊本云、鐵屋在高麗西高樓上、織帳張於

高麗王、以七織帳奉獻於天皇、

〔日本書紀通證二十四〕七織帳、禮玉、漢士不衣織、註織染絲織之、魏略西戎傳曰、

〔催馬樂〕我家

わいへんは、とばりちやうをもたれたるを、おほぎみませ、むこにせん、みさかなに、なによけむ、

あはびさだをか、かせよけん、あはびさだをか、かせよけん、

〔梁塵愚按鈔下〕とばりは幌也、ちやうは帳也、又帳をも則とばりとよむなり、

〔源氏物語二〕火あかくか、げなどして、御くだ物ばかりまるれり、とばり、丁もいかに、そはさる

かたのこ、ろもなくては、めざましきあるじならんとのたまへば、略

幌製作

〔延喜式六〕三年一請雜物

深標帛四疋三尺五寸、中略五丈二尺五寸、夏幌、五條紐、絹二百卅八疋一丈七尺九寸、中略九疋二丈

五丈二尺五寸、紐裏料、三丈五尺、冬幌、同料、中略三十五屯、絲二絢、冬斗帳帷、并、菫安草八十二圍、

冬帷料、三丈五尺、紐裏料、調綿三百廿三屯、冬幌、五條料、斗帳帷、并、菫安草八十二圍、

半、中略廿七圍、染、幌、中略表、錢十七貫七百卅文、九貫八百四十六丈二尺、藍料、疋別三百文、七貫七百廿文、

〔延喜式五〕年料供物

幌三條、殿察縫、備、